

公的資金を受けず自由に発言できる立場は維持していく

シ ヅ 等 会を るために活動する

「デンマーク女性の会 (Dansk Kvindesamfund)」



女性参政権 100 周年を記念し、デモ行進を再現



1871年発足のデンマーク最古の女性団体。1800年代は、工業化で都会に出て働く男女の賃金に歴然と差があり、教育を受ける権利や待遇改善、女性参政権を求める運動を行った。1882年には、デンマーク初の保育園を設立。事務局がある建物は、1895年に、「女性の家」として女性建築デザイナーが設計し、全国からの寄付で建てられたものである。

1915年6月5日、ついに女性参政権を獲得。2万人の女性たちが王宮からデモ行進した。当時は、人前での行進は男性しかできないと思われていたので、全国のマスメディアで大きく取り上げられ、20代の若い旗手は先な女性のモデルになったとのこと。

今年(2015年)は、デンマークで女性参政権獲得から100年目の記念すべき年にあたり、デンマーク女性の会は、100年前と同じ白い服を着け同じスタイルのデモ行進を再現した。

事務局は、専従が2名とボランティアで運営。12人の役員は、全員ボランティアでそれぞれ専門分野を持っている。金は受け、活動金は、会費(会員600人。多い時は17,000人の時もあった)と寄付、冊子やグッズの販売等で得ているとのこと。急激に会員が増えており、ソーシャルメディアのフェイスブックで9,000人のメンバーがいるところ。若や男性会員も増えているとしてくれた。



ストップ セクシズム STOP SEXISM (成功しているプロジェクト)

女性といふことで体をられたり、人とか、が大きいとかいメンが男性から寄られることがある。性にして人な思いをすることが日活のこでも行われていることにして、「ストップセクシズム」というクをめた。女性の会では、専のフェイスブックを設けてをを受けた人から、を、めた。すると、として、になるくらいの、団

のなから、「な保育園で男の子と女の子が行動をしなけれならないの」といなやもながきれた。年をわ、くたくの女性たちがな思いをしていたことがわかった。これらは、これでれてこなかったが、女性けでなく、男性、同性もを受けていることがわかった。マスメディアに取り上げられたことで、デンマーク全体でになり、2014年に、女性運動にしたといふことでれた。デンマークで人の



フェミニンジャのロゴ

忍者をデザインしたフェミニンジャのロゴは、缶バッチなどのグッズにも使用されている。忍者は隠れたところで能力や特技を発することから、「フェミナチ」と呼ばれている女性の運動に対して否定的な発言をする人たちや、性差別を監視している。



「子どもと性別」 コ



シーナ・ピー・ヴァルンさん
(国際的プロジェクト専門)

コペンハーゲン中央図書館で、図書館を普通に利用している人を対象に年3回テーマを変えてセミナーを開催している。参加は自由。

初めに専門家がレクチャーをし、その場で参加者とディスカッションを行う。例えば、兵士の人形とピンクのドレスを着た人形を見せて、保育園やスーパーでは、“男の子用”、“女の子用”とおもちゃに性による区別がつけられているが、分ける必要があるかどうか、セミナーを通して考えてもらう。参加した親から「小さい時から、社会に子どもの将来の仕事を押し付けられたい」と不安と不満が出され、現状に対する驚きを持つ親もいたとのこと。

性別でおもちゃの種類を分けることによって、将来の職業を暗示してしまうことが問題である。1980年代ごろは、そのような分け方は姿を消していたが、次第に売る側、生産者の都合で、今、明確に性別でおもちゃを分けている。ビジネス側の悪気がなくても、将来予測される問題を生産者やお店の側に提供しなければならない。セミナーへの男性の参加について質問をしたところ、「育児や教育がテーマになると、参加者の4分の1が男性、一方、賃金や経済的テーマは女性がほとんど。」と答えた。



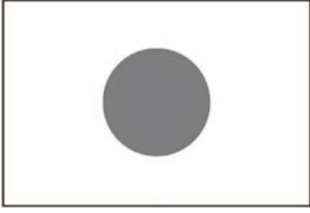
事務局から歩いて4分ほどのところに国会議事堂があり、国会議員にロビー活動を行っている。6月の選挙の時に、「強姦が犯罪として軽視されている」ことをパキスタン出身の女性候補者にインタビューし、法務大臣に署名を届けた。「今朝の朝刊で、300件以上の強姦の被害届が犯罪として登録されていないと、警察のずさんさが非難されていたのよ。」とシーナさんが話してくれた。

2016年は、コペンハーゲンで女性問題を取り上げる国連の催しがある。国際的には、トルコで保育園建設、カメルーンで性暴力の被害を受けた女性のためのシェルターを作るプロジェクトを立ち上げているそう。今後の課題について質問すると、女性に対する暴力、性差別、男女同一労働・同一賃金の問題と返ってきた。

「私たちのまち 福岡で活かせること」

女性運動に大きな影響を与え続けてきたデンマーク女性の会は、ジェンダー平等を目指した女性運動の歴史を継承し、身近なことから国際的なことまで幅広い活動を実行していた。多くがボランティアで活動し、ソーシャルメディアを活用して、若い世代を巻き込んで活動していることに感動を覚えた。

次々と発せられる団員の質問に、一つひとつ丁寧に対応してくれた。最後に、だれにも遠慮なく発言したいので、国から補助金をもらう気は全くないときっぱりと答え、「今の社会、今の女性にとって、大きな成果を出しているという誇りがある。」と答えたことがとても印象的であった。身近な問題から、すぐに行動に起こし、社会を変える運動へと繋げていくことを学んだ。



日本とデンマークの関係性を築き維持する

在デンマーク日本国大使館



大使館の概要

1867年の江戸幕府による修好通商航海条約締結に始まり、海運、貿易活動等を通じて友好関係が発展、維持されている。欧州最古と言われるデンマーク王室と日本の皇室は親密な関係を維持している。

2017年には日本・デンマーク外交関係樹立150周年を迎える。

在デンマーク日本国大使館はコペンハーゲン市内のビルの9階にあり、平成25年10月より、特命全権大使として末井誠史氏が務めている。なお、日本デンマーク協会の名誉総裁は、常陸宮殿下である。



民間会社と共に複合ビルに入っている日本大使館

大使館では、外交の最前線として様々な役割を果たす他に、デンマークに住む日本人が、安心して生活を送るために大事な治安関係の情報をメールで届ける「大使館通信」を始めた。また、コペンハーゲンをはじめとしたデンマークの安全情報を中心に、ビジネスや文化関係の情報も時宜に応じて配信している。

国家元首：マルグレーテ2世女王

国会議長：ピア・ケアスゴー（デンマーク国民党）

全閣僚：17名中5名女性

国会議員：179名中67名女性（37%）

日本とデンマークには、自由な市場経済を原則として海洋によって繁栄を追及してきたという共通点がある。

デンマーク日本大使館で末井誠史特命全権大使とともに

男女共同参画の現状・日本との比較

- 女性労働参加率：76%（日本 64%）
- 社会に占める女性リーダーの割合：28%（日本 11%）
- ジェンダーギャップ指数：14位（日本 101位）
- 初婚年齢：男性 34.8 歳、女性 32.2 歳
（日本 男性 31.1 歳、女性 29.4 歳）
- 就業時間：1,436 時間（日本 1,729 時間）
- 育児休業：女性は産前 4 週間、産後 14 週間出産休暇
男性は産後 14 週間までの間に連続 2 週間出産休暇
14 週以降は両親ともに 32 週間の育児休暇を取れ、
両親一緒に取得も可能（但しこの間の手当は 1 人分）
- 育児支援：保育園、幼稚園に預ける割合

0 歳	19%（日本 10%）
1 歳～2 歳	91%（日本 31%）
3 歳～5 歳	97%（日本 92%）

- 児童手当：0～ 2 歳 26,382 円
- 3～ 6 歳 20,985 円
- 7～17 歳 16,442 円

日本
 0～3 歳未満：一律 15,000 円
 3 歳～小学校修了：
 第 1 子・第 2 子：10,000 円、
 第 3 子以降：15,000 円
 中学生：一律 10,000 円
※いずれも所得制限以下である場合

- 離婚率：54%（女性が経済的に自立しているため）
 - 女性に対する暴力：EU28 カ国中 1 位（15 歳以上の女性の 52%が、DV を受けた経験がある）
（※DV に対する意識の差があるのではないか？という大使からの説明があった。）
- 2020 年を目標に、シェルターを利用する女性のリピーター数を 30%削減し、シェルター利用者総数に占めるリピーター数を 25%以下にするとの目標を掲げている。



入口には菊の御紋



デンマークの国の成り立ちから丁寧に説明を受ける団員達

「私たちのまち 福岡で活かせること」

デンマーク日本国大使館へは、当初予定にはなかったが、出発の 6 日前に訪問が決定した。

期待と緊張感を持ちながら訪問した日本国大使館はビルの 9 階にあり、大使館入り口の上に掲げられた菊の紋章が印象的であった。通訳なしで聞ける安堵感と、末井大使からわかりやすくデンマーク事情を説明して頂いたことで、デンマークと日本との良好な関係性や、男女共同参画推進に対する国の考え方の違いなどを理解することができた。国や地域により考え方は違うが、少子高齢化対策、男女共同参画推進に対する思い、DV や犯罪に対する悩みはどの国でも一緒なのだと感じた。

国民幸福度世界一のデンマークで学んだことを参考にし、県民幸福度日本一を目指す福岡県に近づくよう、男女共同参画推進に取り組みたいと思う。

まず地域や職場での意識改革と意思を伝え続けること、いろんなコミュニティに参加し仲間を作ることが必要だと思う。そのためには、男女共同参画についての理解を深め、聴く力・話す力を養い、スキルアップする必要性を感じている。

日本国大使館が国の架け橋であるように、我々も県・地域・社会との架け橋となっていきたい。